

南国市内中学校指定強化選手の紹介

先月号に引き続き、第57回国民体育大会競技力向上委員会から指定された、市内中学校6選手を紹介します。

【 】内はよさこい高知国体での開催場所です

バレーボール

【少年男子:須崎市内3会場、少年女子:大正体育館(仮称)】



中澤 彰人くん (香長中3年)

身長178cmでライト、センターのアタッカーをしています。垂直跳び52cm。小学5年生の時、親のすすめで教室に入り、母と兄もバレーをやっています。アタックが決まるとうれいです。



明神 健太郎くん (香長中3年)

身長180cm、センターのアタッカー。中学校に入学してからクラブに入りました。走り込みはつらいけれど、ブロックを決めたときは、うれしいです。



中沢 珠里さん (香長中3年)

小学校3年の時に、先輩のすすめで三和のバレークラブに入りました。スイスナショナルチームのエースアタッカーを目標に、つらい基礎トレーニングなどにくじけず、頑張っています。



徳弘 健志くん (香南中3年)

身長175cm、垂直跳びが70cmのセンターアタッカー。兄の影響で、中学校から始めました。中学校のクラブでは副キャプテンをしています。サーブカットが苦手なので、練習中です。

馬術 [全種別:県立実践農業大学校窪川校特設馬術競技場]



濱田 弥和さん (香長中3年)

高知では同じ年齢くらいの方がまだまだ少ない競技です。時にはこけたりするけど、より高い障害を跳び越したり、新しいことができるようになります、とてもうれしいです。



田中 美希子さん (鷹ヶ池中1年)

小学校の時に始めて、練習に頑張っています。大会では、障害のあるものやタイムを競うものがあります。



犬・猫を飼っている皆さんへ

犬や猫に対する苦情が最近多く寄せられています。他人に迷惑をかけないように飼いましょう。

▼犬の放し飼いは やめましょう
朝夕、運動や排便のために放す人がいます。放し飼いに伴って、咬む事故を起こしたり、よその犬から病気をうつされたりします。

▼犬の糞は 飼い主が始末しましょう
犬を飼うなら毎日の散歩は欠かせません。他人の土地や公共の道路・公園は、犬のトイレではありません。運動につれていくときは必ず「ビニール袋」を持参し、自宅で適正に処理しましょう。



▼猫のトイレは 清潔にしましょう
猫は生後2カ月の子猫でも、決まったところに排泄する習性をもっています。最初から猫にトイレの場所を教えることが大切です。猫の排泄物は臭く、猫の臭気は人間よりずっと強いので、臭いトイレで用を足すのを嫌がり、毎日まめにトイレの始末をしましょう。

▼悪臭や鳴き声などで迷惑を かけないようにしましょう
犬・猫を飼えば、隣・近所との間わり合いが、たくさんできます。他人に迷惑をかけるように「しつけ」と「心配り」が必要です。飼い犬・飼い猫・犬舎なども清潔にしましょう。

▼犬・猫の引き取り
毎月1回、飼い犬・飼い猫、飼い主不明の子猫(飼い主不明の親猫は引き取りません)を引き取ります(今年度は次の日程です)。

▼とことろ/市役所北側駐車場
時間/午前9時~9時30分
*印鑑をご持参ください。
家族の一員として愛情と責任を持って最後まで大切に飼いましょう。

将来、どんなことがあっても、私を支えてくれたなかまの事を思い出し、何事にも正面からぶつかっていききたい、たとえはね返されなくても、次はそれに負けない力をつけてまたぶつかっていききたい。平凡でもいいから、自分の満足できる生き方をしたい、そう思います。私が考える「生きることの意味」...それは、常に明日を夢見ること、愛に満ち溢れていること、そして、人権を尊重し、互いに助け合い共に生きることです。
私は、「日本に住むすべての人々に同等の権利を」と訴え続けていきたいです。
(長文のため一部省略しています)

人権と主人公は私たちひとりひとり ⑩ 同和教育シリーズ
先月号に引き続き、昨年度に県の「人権の主張発表会」で南国市の中学生が発表した作品を紹介いたします。
生きることの意味 鷹ヶ池中学校3年 吉村美沙さん
私自身は、互いに支えあうことの意味を、わかば解放子ども会から学びました。
この子ども会とは、いろいろな立場を持った子が集い、自分の立場を自覚することによって誇りを持ち、さまざまな差別をなくしていこうとする場です。私はこの子ども会からたくさんを学びました。自分をさらけ出すことの大切さ、命の尊さなど、今までの自分の考えを大きく変えることを、そして、これからの生き方を見出すきっかけとなりました。
自分をさらけ出すには、たくさんの方の勇気が必要とします。私は毎年夏に行われる交流合宿に、小学5年生の時から参加しているにもかかわらず、自分のしんどさを話れずいました。他のメンバーは次々に主張し、心まで裸にしてくれたのですが、私は返さずいていませんでした。今年の合宿も、あれよあれよといううちに終了し、すっきりしないままバスに乗り込みました。すると、私と同じように自分をさらけ出せなかった仲間が、自分の家庭のことや、描いていた裸の心を語り始めたのです。語り終わった後の彼の表情は、今まで見たことのない笑顔で、希望に満ち溢れていました。私はその姿に心を打たれました。同時に、今までの「言わなければ」という焦りから解放され、「言いたい、自分のことを知ってもらいたい」という気になったのです。その日は、からを破り、子ども会のメンバーとさらに深い絆を結ぶことができました。私の想いを聞くメンバーからは、言葉だけでなく目から、心から「一緒にがんばっていきましょう」というぬくもりが伝わってきました。そして、これからも支え合っていこうと再確認したのでした。